

NEWS LETTER

# KYU-UEDAKEJUTAKU

## INFORMATION

八尾市指定文化財 安中新田会所跡  
旧植田家住宅だより

Volume 08

2011年4月発行

企画展  
「金属のうつわ」  
の魅力

お茶会～煎茶を楽しむ～

朗読の会

特集  
「うえまっぶ  
Vol.2 完成！」



<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

### 3.11 東日本大震災に思う

今から 50 ～ 60 年前、昭和時代の初め頃は井戸水を汲み、ご飯は薪で炊く暮らしをしていました。その後、日本は高度成長期を経て、社会や生活様式も大きく変わってきました。ますます「衣食住」が便利で快適になる一方で、恩恵を受けながらも、当たり前のこととして日々を過ごしてきたことに、今回の大震災で気付かされました。

ニュースで、まちや村が目の前で津波に押し流され、何もかもが流失した風景を何度も見た時「これまで営まれてきた人びとの生活や、まちの記憶はどこに残っているのだろうか？」と考えました。その後、残された瓦礫の中から至る所で、思い出の写真正を見みつけだされ、それらをボランティアや写真館、企業が修復するという活動を行っていることを知りました。改めて私たちは、地域の歴史、文化、産業を検証し伝えること、そして人びととの連携の大切さを学びました。

旧植田家住宅の施設運営活動の一環に、大和川付け替えの歴史学習、少し昔の生活道具やかまどを使ったご飯炊き、河内木綿の綿くり・糸紡ぎなどのメニューがあります。今では不便に感じるそれらの体験も、先人達の暮らしや、歴史から継承した地域の特徴です。私たちはこれからも、皆様と共に地域の歴史、文化を共有しながら、それらを次代へ伝えていく事に邁進してまいります。

末筆ではありますが、このたびの東日本大震災において被災されました皆様に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を心より願っております。

NPO法人HICALI 理事長 木村正二



表紙写真：大津絵《猫と鼠の酒盛り》

### 大津絵(おおつえ)

近江国追分(現・滋賀県大津市)を発祥の地とする民俗絵画で、江戸時代の初めごろから東海道の土産物や旅人の護符として知られていました。当初は信仰の一環として描かれた仏画でしたが、やがて世俗化し、教訓的・風刺的な歌が添えられることも多くなりました。

藤娘、鬼や雷、天狗のほか、大黒や寿老人も人気のある画題で、動物では猫や鼠、猿などがユーモラスな姿で登場します。

### 《猫と鼠の酒盛り》

自分の体ほどもある大きな盃で酒を飲むねずみに、さらに酒をすすめている猫の図です。「酒に吞まれて我を忘れると身を滅ぼす」という意味が込められています。

4

企画展  
「金属のうつわ」の魅力

6

お茶会～煎茶を楽しむ～

7

文学座俳優がよむ「朗読の会」

8

特集  
「うえまっぷ Vol.2」完成！  
～新うえまっぷでまち歩き～

10

3つの展示の話

11

家相図・屋敷図にみる旧植田家住宅の歴史

12

なにわの伝統野菜栽培日記⑧

13

植松のまち・ひと 第4回

14

コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (二)」

15

今後のお知らせ



# 「金属のうつわ」

の

## 魅力



展示期間

2011年4月1日(金)

～5月30日(月)まで

### 【金属の歴史】

人類の金属利用は実に長い歴史を持っています。不純物の多い金属から純度の高い金属を取り出したり、必要に応じて金属材料や合金を作り出す精錬や冶金（やきん）といった技術がなかった当初は、自然に産出される金属を用いていたと考えられます。特に自然銅に関しては、イラン西部のイラク国境に近いアリ・コシュ遺跡（紀元前六八〇〇年～紀元前六〇〇〇年頃）で新石器時代初頭から使用されていたことが確かめられています。紀元前五〇〇〇年頃のエジプトでも自然金や自然銅の使用が始まっていますが、これらはいずれも自然界に散在するものを採取し、叩いたり削ったりして使われていました。後に青銅器時代を経て鉄器時代が訪れます。比較的自由な形に加工でき、強度の高いこれらの金属は、人類の歴史を大きく変えていったのです。

### 【金属加工の技術】

歴史的にみれば、河内地域が金属加工で重要な地域であることは広く知られており、平安時代後半から室町時代前半にかけて、河内鑄物師（かわちいもじ）と呼ばれる金属鑄造の技術者集団が、先進的な技

術を全国に広める働きをしました。戦国時代、金属加工技術が集積した堺で鉄砲が作られたのも当然のことだったのです。余談ですが、現在では金属加工の技術が自転車生産に活かされ、堺市には世界最大の自転車パーツメーカー、株式会社シマノの本社があります。



### 【錫器の変遷】

近世に入ると、大阪堺筋近辺を中心にして、錫半(※)など金属器を扱う業者が現れ始め、『難波雀』や『増補 浪花買物獨案内』などといった当時のガイドブック的な本にも紹介されるようになり、大坂の名産品として知られるようになりました。今回の展示で大きく取り上げた錫器は、煎茶の器としては最上のものであるといわれ、武家だけではなく、一般



層にまで広まってきました。

明治初期にはイブシと呼ばれる着色技法が生まれ、サンフランシスコ万国博覧会(大正五年)に銅器、真鍮製品などともに五点が出品されています。昭和になると太平洋戦争の影響で一時期は生産量が激減しますが、残った職人たちが技術を継承し、昭和五八年には国の伝統的工芸品「大阪浪花錫器」として認定され、現在にいたっています。また、近年はメディアに取り上げられることも増え、じわじわとその人気を伸ばしているようです。

### 【「金属のうつわ」の魅力】

現在、わたしたちの生活の中で金属利用といえば、工業製品が大半を占めており、器として使われることは少なくなってきました。かつては学校給食の食器として使われていたアルマイトの食器や、アルミ製弁当箱、ブリキ製の衣装箱なども姿を消して久しくありません。わが家で夏に冷蔵庫で麦茶を冷やしている古いアルミ製ポットも、新調したくとも今はもうどこを探しても売っていません。やかんや鍋などといった、直接火にかけられるものを除いて、金属の器はいつの間にか、全国的にその地位をセラミックスやプラスチック

クに譲っていたのです。

旧植田家住宅には明治時代から大正時代頃にかけて制作されたと思われる金属器が多くこのされています。これらの器の中には祝い事など、特別な時に使われたと考えられるものだけではなく、日用の器として使われていたと思われるものも含まれており、往事の生活が想像されます。今回の企画展で伝えたいのは工芸品としての美しさだけではなく、あたたかくやわらかな光を放つ金属器の魅力と、受け継がれた熟練の技。ぜひ、その一端にふれていただければと思います。

安中新田会所跡 旧植田家住宅

学芸員 宮元正博

※錫半(すずはん)

正徳四年(一七二四)、大坂に創業した錫製品老舗。錫屋平兵衛の名に由来。



## 茶碗に入った数滴のお茶に 感無量

一月二十三日(日)、「お茶会」煎茶を楽しむ」が旧植田家住宅の座敷で開かれた。煎茶とは、茶の新芽を摘んで製した茶葉に湯を注いで煎じたもの。煎茶道には様々な流派があるが、今回は師範・寺尾繁氏をはじめとする「小川流」の方がたをお招きし、煎茶を入れていただいた。小川流は江戸時代

末期、御典医だった小川可進が始めた流派で、濃い茶を数滴だけ茶わんに注ぎ、喫するのが特徴だ。

この日、旧植田家住宅の座敷は、茶具飾り(煎茶を入れる道具類)や床(とこ)には墨飾りなどが置かれ、煎茶の茶席へと二変した。十時、十一時、十三時の三席が設けられ、贅沢にも目の前で煎茶を入れていただいた。煎茶を入れる手さばきは鮮やかで、ただ圧倒されるばかりであった。煎茶は急須にお湯を入れ、茶碗に注ぐまでの間、蒸らす時間が長い。その間の待ち時間、会話を楽しむことが大阪の文人たちの粹だったようだ。

煎茶の入った茶碗が参加者の目の前に並べられた。「一煎目」のお茶は、口に含むと、甘くて濃いお茶の味が口の中に広がった。参加者も最初は緊張していた様子だったが、煎茶を飲むと次第に笑みがこぼれ、会話も進み茶席は和やかな雰囲気になった。「二煎目」のお茶は少し苦味があるが、口の中でスーッと広がり、茶葉本来の味を楽しむことができた。そしてお菓子をいただき、口直しに白湯(さゆ)を飲んでお茶会はお開きになった。最初は「煎茶ってこんな数滴だけのお茶なの？」と感じたが、飲んでみてびっくり。お茶の香りが口いっぱい広がって、茶葉が持つ



甘み、苦味に酔いしれてしまった。この数滴のお茶に煎茶の世界観が盛り込まれているのだ。また煎茶は茶葉の量、お湯の温度、入れるタイミングによっても微妙に味が異なり、同じ味を出すことは非常に難しいようだ。だからこそ奥が深いのかも知れない。

今回参加できなかった人も煎茶を知らない人も、もし煎茶に触れる機会があれば参加してみることをお勧めする。新しいお茶の世界が広がること間違いなし。また、実は旧植田家住宅には煎茶道具が多く残されている。おそらく植田家の人びとも煎茶を楽しんでいたのだろう。四月からリニューアルした土蔵(民具資料展示室)には、その煎茶道具の一部を展示している。旧植田家住宅に来た際には、是非みていただきたい。

関西大学大学院文学研究科 谷口弘美



## お茶会 ～煎茶を楽しむ～

## 文学座俳優が読む

# 朗読の会

二月二十日（日）、「朗読の会」があり、六歳〜八十歳代までの参加者四十七名で賑わいました。この朗読の会は、（財）八尾市文化振興事業団の主催で、旧植田家住宅の座敷で「おはなし」を楽しむという企画です。

文学座の俳優・石井麗子さんが三作品を朗読されました。容姿・声とともに涼やかで上品、表現も決してオーバーではなく、聞き手が想像する楽しみを残した読み方でした。



読み手の石井麗子さん

また、この日は旧植田家住宅恒例の「むかし遊びの日」（第三日曜日）と重なり、朗読の会の後は、こま回しや、けん玉に興じる声が響いていました。

加藤 邦枝



作品の中に入り込む参加者

## ふれあいとぬくもりの商店街



JR八尾駅前商業協同組合

## 特集

# 『うえまつぶ2』<sup>つー</sup>

### ◇新うえまつぶ2ますあるき

昨年より、「植松のまちづくりを考える会」をはじめ、植松とその周辺地域にお住まいの方から、昔の暮らしやまちの様子などを聞き取り、その内容やちよつと昔の写真をもとに製作を進めてまいりました「植松すこし昔のくらしまつぶ」(通称：うえまつぶ2)が遂に完成!

一月三〇日(日)には、完成記念イベントとして、「新うえまつぶでまちあるき」を開催しました。とても寒い日でしたが、おとなも子どもも元気いっぱい(?)に植松のまちを歩きました。

「うえまつぶ2」には、昔の写真がたくさん載っています。その写真の場所が、今はどうなっているのか?今回は、写真のフレームのような厚紙を一人ひとりに配布。写真を撮影したであろう場所から、同じアングルで厚紙フレームから覗いてみました。

「ここに写っている屋根は今もそのままだよ!」「跡形もないね・・・」と、参加者のみなさんの会話も弾みました。撮影場所が定かではなかった写真も、地元参加者の方から、「これはここやで!」と教えていただき、スタッフもスッキリすることができました。



### ◇完成!うえまつぶ2

さてさて、完成した「うえまつぶ2」とは果たしてどんな「まつぶ」なのでしょう? サイズは広げるとA2サイズ。両面フルカラー印刷で、持ち歩きやすいように1/8に折り畳まれています。表側は、今の三倍以上の数もあつた、賑やかな昔の植松のお店を当時の航空写真の上に書き込んだ地図をメインに、その頃の風景写真と解説が載っています。裏側は、学校の様子やまちの様子、あそびや食べ物、当時の生活や暮らし方など、みなさん

んにお話いただいた内容を、これも当時の写真やイラストとともに載せています。配布はすでに始まっています。旧植田家住宅や龍華コミセンなどに置いてあります。

ご覧になられた方の感想は「懐かしくて一晩中見ていた」「ほっこりとしたいいまつぶですね」と大評判となっています。そして二月には東京でも配布。五十部があつという間になくなってしまいました。少しは八尾・植松をアピールできたかな?

JR八尾駅の橋上化工事も始まり、いよいよ植松のまちも変わろうとしています。このまつぶを通して、昔を思い出しながら、未来の植松をみんなで考えられたらいいな、と考えています。そして、これからのように変わっていても、

昔の植松を地域の子どもたちに伝えていけるように、このまつぶを使った出前授業も始まっています。みんなで作った「ほっこり植松」。みなさんもご覧あれ!!。



# 「うえまっぷ2」って、

# どんなの？



### 【おもて面】

まっぷを広げると、今の3倍以上の店舗数があったころの、にぎやかな商店街の姿がよみがえります。

### 【うら面】

まっぷを裏返すと、当時のくらしの様子がわかるようになっています。学校やまちの風景、地域の行事、遊び、食べ物など…大人には懐かしく、こどもには新しい(?)情報が満載！



みんなも  
「うえまっぷ」を持って  
でかけよう！

「うえまっぷ」に関するお問い合わせは、  
安中新田会所跡 旧植田家住宅 まで。  
TEL : (072)992-5311

# 3つの 展示の話

## ① 優品ぞくぞく!?

### 「大和川付け替え関連展示」

昨年度より、通常展示としてスタートした「大和川付け替え関連展示」。大阪平野の成り立ちや大和川付け替え後の長瀬川・玉櫛川の様子をパネルで紹介するこの展示は、年三回行なわれる予定になっています。この展示、年四回開催される企画展のあいだの期間を埋める展示のようになっています。実はパネルの展示とともに植田家に伝わる「優品」が、ケースの中で展示されています。

茶道具をはじめ、各種工芸品やコレクションシヨンの価値のある「大津絵」や「浮世絵」なども登場し、ひそかに来館者を楽しませていきます。前回は「大津絵」が数点出され、なかでも《猫と鼠の酒盛り》(※写真は表紙を参照)が、ひときわ目を引きました。次回はどんなものが飛び出すのか、お楽しみに。

## ② リニューアル!

### 「土蔵1(民具資料展示)」

旧植田家住宅では、常設展示として建物の公開のほか、土蔵1にて民具資料の展示をしています。ここでは植田家が生活の中で実際に使用してきたものがテーマごとに配置され、往時の生活が



偲ばれるほか、小学校の「昔のくらし」の学習にも役立つています。

年間を通して基本的に展示内容は変わりませんが、年度の始まりには展示替えをする予定になっています。そしてこの四月から、土蔵1には新たな展示品が登場しました。

おなじみの「衣・食・住」の各コーナーでは、着物が替えられ、食器の配置なども大きく変わりました。また「ちよつと贅沢な日用品」のコーナーでは、過去の「装う」展にも登場した装飾品や、煎茶茶碗なども展示されています。

以前の展示を見た人も、楽しめる内容になっていますので、リニューアルされた土蔵1をぜひチェックしてみてください。

## ③ 作品ただいま募集中!

### 「写生作品展示(ギャラリー)」

来館者の間で徐々にうわさが広がりがつつある(?)「施設周辺写生作品展示」の募集が四月から始まっています。この企画は、旧植田家住宅やその周辺の風景を描いた作品を一般から募集し、展示するというもので、毎回たくさん子どもたちが参加し、ギャラリーを華やかにしてくれています。

今回は夏休みが展示期間となっていますので、夏の思い出づくりや作品の腕試しなどに利用していただければと思います。また作品の募集は、年間を通して行なっていますので、気軽にご参加ください。詳細は、旧植田家住宅施設内またはホームページでも応募用紙がダウンロードできます。みなさまの力作をお待ちしております。



展示期間:

7月23日(土)~8月29日(月)

※4/1(金)から7/10(日)までの  
応募作品を展示します

◇<http://kyu-uedakejutaku.jp>

# 家相図・屋敷図にみる

## 旧植田家住宅の歴史

手相や人相と同じように、家にも「家相」というものがあります。家を建てるときには今でも家相を気にする方は少なくないでしょう。建築家や設計士を悩ませているそうです。植田家の人びとも家を改築する際には家相を見てもらっていたようで、家相図・屋敷図が多くのごされています。

「安中新田分間絵図」を見ると、新田の中心部にある「会所屋敷」の土地はおよそ一二〇坪です。現在の敷地面積（約四五〇坪）とくらべてもはるかに小さく描かれています。これは会所として始まった当初、住居としての役割が小さかったからだと思います。その後、植田家の人びとの生活の場としての役割が大きくなっていくにつれ、屋敷は大きくされ、明治時代後期にほぼ今のかたちになっています。

住む人や屋敷の機能、時代に合わせて、植田家住宅は絶え間なく姿を変えていきました。これらの家相図・屋敷図をもとに、植田家の建物がどのように変化していったのかを

追いかけてみようというのが今回の展示のテーマでした。

### 講座 「伝統民家のあれこれ」

この展示に合わせて、三月六日（日）に講座「伝統民家のあれこれ」が開かれました。講師は一級建築士で伝統民家を研究されている平谷宗隆氏。「楽しみながら勉強してもらいたい」という平谷氏の言葉通り、いろいろな民家の実例を紹介しながら、古民家の基本的な構造や部材の名前などを解説していただきました。たくさん写真や図面をスクリーンに映しながら話が進められたので、建築についてはまったく素人の私にもよくわかりました。

虫籠窓（むしこまど）や格子のデザインにもいろいろなものがあるということや、曲がった木を場所に合わせてそのままの形で使うこと、屋根組の方法など、何気なく伝統民家を見てみると見過ごしてしまう部分にも、いろいろな工夫があることに



伝統民家の解説をする平谷氏

あらためて気付かされました。こういうことを知っていると知らないのとでは、伝統民家の楽しみ方は大きく違うのではないかと思います。うかがいでしょか。

実はこの後、講座の中で紹介された與兵衛桃林堂（※）を見てきました。葺きかえられたばかりの茅葺屋根はきれいに切り揃えられており、歴史あるたたずまいの中に、若々しさや清々しさといったものが感じられました。伝統民家の魅力を発見した気がして、ひとりほくそ笑む春の一日なのでした。

※與兵衛桃林堂（よへいとーりんどう）

平成十一年（一九九九）に桃林堂板倉家住宅として国の登録有形文化財に登録。十八世紀前半頃の建築とされる。八尾市東本町二・五・一二



講座の様子

# なにわの伝統野菜 栽培日記

No.8



【3月5日 エレフェス】

冬野菜の収穫後、次の夏野菜を植える間、畑には初の葉物「大阪しろな」とほうれん草、そして近隣の方からいただいた赤たまねぎを植えていた。寒さが続いた中、何とかそれなりに育ったしろなとほうれん草を、子どもたちと収穫した。

集まってくれた十数名の子どもたちは、それぞれ自由に株を抜き、大きなタライでジャブジャブ洗う。…が、ここでハプニング！土のついた野菜を今まで洗った事がなかった子どもたちが、タライの中で野菜をモミモミ、ゴシゴシ……。スタッフが少し目を離した間の出来事。気づいた時にはヨレヨレになった葉っぱがプカプカ浮いていた（笑）

気を取り直し、改めて野菜の洗い方をスタッフから教わり、キレイに土も落とした。ここでようやくお楽しみ会の試食会。ほうれん草はシンプルにゴマ和えに。しろなは子ども向けに、ミルクたっぷりのクリーム煮にしてみた。思惑通り、これが大好評だった。「めっちゃおいしい！おかわり〜。え〜っ、もうないの!？」しろなが苦手だと言っていた子も、たくましい食べっぷりだった。

今後、四月中頃には勝間南瓜・毛馬胡瓜・黒門越瓜などの夏野菜の種まき、後半には、

現在プランターで小さな実をつけている確井豌豆（うすいえんどう）を収穫し、カマドで豆ごはんを炊くという予定もあり、すでに何人かの子どもたちの申し込みを受けている。毎月一回程度を予定している畑の「イベント」の参加者に渡す、スタッフお手製の「スタンプカード」も出来上がり、子どもといっしょに作る畑の出だしは順調。四月に入り、ようやく暖かくなってきた今、裏庭では種取り用の田辺大根と天王寺蕪が満開の花をつけている。

【堆肥、いただきました】

先日、知り合いの千早赤坂村の農家の方から大量の堆肥を分けていただいた。この堆肥は、動物園から直接買われているものだろうで、よく発酵している。これを土に混ぜるとかなりよい状態になるらしい。

早速、教わった通りに混ぜ込んでみたところ、以前とは全くちがう、畑の土らしい土になった。野菜作りに関しては全く素人の私。この農家のおじさんの所にたまに足を運び、いろいろ教えてもらいメモをとる。

昨年すこし不作気味だった胡瓜も、今年は、このおじさんと堆肥のおかげで、豊作になればと期待している。

# 植松のまち・ひと

## 第四回

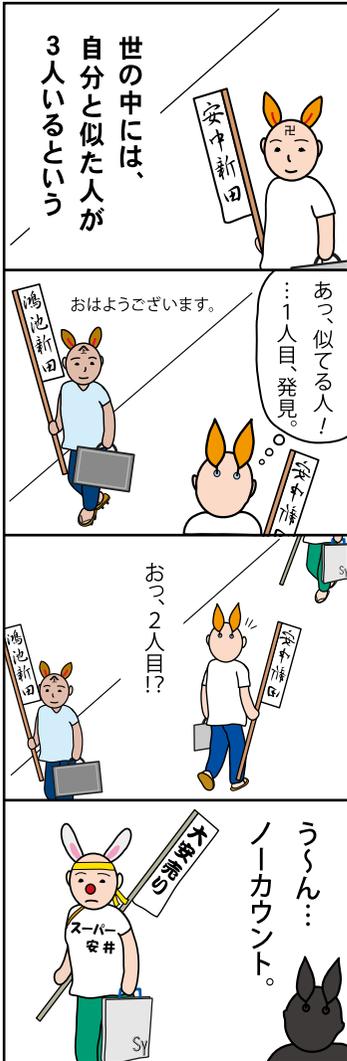
変わりゆく風景と植松のまち並み①

このコーナーでは植松のまちの魅力を探るべく、毎回さまざまなひとや場所を紹介している。今回は、現在着々と計画が進むJR八尾駅周辺整備事業によって変わりゆく「まちの風景」をお伝えしたい。

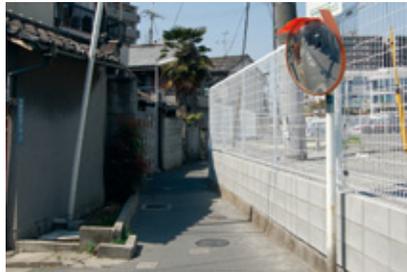
「JR八尾駅」の駅舎は、この度、自由通路の設置および橋上化工事に伴い、周辺環境とともに大きく生まれ変わろうとしている。そのため、ここ数カ月で植松のまち並みも随分と変わった。新しいシンボルの誕生によって街が活性化し、交通の便もよくなることは喜ばしいが、慣れ親しんだ風景が失われていく寂しさも同時にある。今はただその移り変わりを写真で楽しむだけである。

# マンジーくん

安富士 暁



2010/6/19 旧大和川堤跡の段差



フェンスで覆われ、壁が出現!?



2010/12/21 JR八尾駅前南口花壇



古い建物が撤去され、景色が変わった!

現在(4月)



おいしいお茶は心を豊かにしてくれます..

暮らしのお茶からギフトまで...

0120-19-1184



店主のおすすめ

深蒸し煎茶 芳水 100g/200g  
深蒸し煎茶 清緑 200g  
おいしいティーパック 5g×18パック

おいしいお茶は専門店

# 龍華茶舗

〒581-0083 八尾市永畑町2丁目1-1 Tel.072-993-5673/Fax.072-923-5828

# 落穂拾い

## 「今東光の董風」(二)

文・伊東健

今年の二月二八日に日本航空(JAL)のロゴマークである「鶴丸」が復活するというニュースを聞いて思い出したのが、司馬遼太郎著『街道をゆく 十五 北海道の諸道』の一部でした。今東光が当時、産経新聞紙上に連載中だった「裸の恋人」の取材旅行で函館に向かっている機内での出来事を、担当として同行した司馬さんが次のように書いています。

当時、日航機の機内の壁にこの会社の社章である鶴の定紋風の絵が装飾として描かれていた。はねをまるくひろげた形で、日本の定紋でいう「鶴丸」に似ており、壁のあちこちに散らすようにして描かれている。今さんは強度の近視である。好奇心が膨らんでくると目までふくらんでくるようで、その絵に顔を近づけてじっと見ていたが、やがて通りかかったスチュワーデスをよびとめ、「なぜおれの家の紋がここに描いてあるんだろう」と質問した。

スチュワーデスがどう応答したかわずれたが、彼女が立ち去ってから、今家の家紋のいわれを私に話した。何代か前の人が功によって藩主からこの定紋を頂戴したという。そういえば津軽の殿様の定紋は鶴丸である。

一九五〇年代から使用し始め、五九年には正式に商標登録されたJALの鶴丸マークでしたが、経営統合等で二〇〇八年に一旦、新ロゴを制定。今回、創業当時の精神に立ち返り、挑戦する精神・決意・原点・初心を表したというのが復活の理由でした。

東光が活躍した昭和三〇年代に天台院内で撮影された写真のいくつかで、鶴丸の定紋入りののれん等を部屋にかけている様子を確認することができ、さすが、きつと、東光もそのような気持ちで、「奇跡のカムバック」を果したのだらうと想像していただきます。



「りんごの木」では、障害をもつ人たちが  
ひとつひとつ丁寧に縫製品や  
手織り品をつくり働いています。

# りんごの木

HOT CRAFT SHOP

社会福祉法人 信貴福祉会  
りんごの木

〒581-0868  
大阪府八尾市西山本町4-15-2  
作業所: TEL/FAX (072) 993-4330  
ショップ: TEL (072) 997-1440  
営業時間: AM 10:00~PM 6:00  
定休日: 日曜日(臨時休業あり)



ブックカバー  
文庫本 (17×31cm)  
新書版 (19×32.5cm)

扇子ケース・扇子付 (24×5cm)

## これからの展示・企画ご案内

### 展示

- ◎4月1日(金)～5月30日(月)  
企画展「金属のうつわ」
- ◎6月3日(金)～7月10日(月)  
「大和川付け替え関連展示」
- ◎7月14日(木)～8月29日(月)  
企画展「昭和の暮らし」  
※7/23より 同時開催「写生作品展示」

展示、イベント等のお知らせは  
ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

### 企画

※毎月第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

- ◎5月29日(日)  
ふれあい昔あそび「チャンバラ教室」
- ◎6月5日(日)  
まちなみ再発見「周辺史跡を歩く～植松・跡部・亀井コース～」
- ◎7月24日(日)  
夏休み「自然観察～渋川神社の樹木調べ～」
- ◎7月30日(土)  
講座「昭和の道具と昔の暮らし」(仮題)  
(講師:安村俊史氏)

(詳しくはお問い合わせください)

### 5・6・7月の休館日のご案内

※○印が休館日

5 May						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	○10	11	12	13	14
15	○16	○17	○18	19	20	21
22	23	○24	25	26	27	28
29	30	○31				

6 June						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	○7	8	9	10	11
12	13	○14	15	16	17	18
19	20	○21	22	23	24	25
26	27	○28	29	30		

7 July						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	○5	6	7	8	9
10	○11	○12	○13	14	15	16
17	18	○19	○20	21	22	23
24	25	○26	27	28	29	30
31						

安中新田会所跡 旧植田家住宅へは公共の交通機関をご利用ください

※当施設に駐車場はございません

- JR 大和路線八尾駅下車  
南出口より東へ徒歩3分
- 近鉄大阪線八尾駅から  
近鉄バス藤井寺駅前  
JR 八尾駅前バス停下車  
南東へ徒歩6分
- 大阪府八尾市植松町 1-1-25
- 072-992-5311
- <http://kyu-uedakejutaku.jp>



開館時間：午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分迄)



JR八尾店は、旧植田家住宅より西へ約20M。ご利用をお待ちしております。



- ◎本社・陌草園(山本南) Tel-072-923-0003
- ◎JR八尾店(渋川神社北) Tel-072-992-4649
- ◎西武店(八尾西武・地下1階) Tel-072-997-2650
- ◎東京・上野店(東京芸大前) Tel-03-3828-9826
- ◎東京・青山店(表参道) Tel-03-3400-8703

<http://www.tourindou100.jp>



本社・陌草園(山本南)

